

令和6年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	16	学 校 名	静岡県立小山高等学校 (定時制の課程)	校 長 名	櫻井 教文
------	----	-------	------------------------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	自立の心を持った生徒を育てる生活指導とすべてに優先する安心安全な学校作り (ア) 挨拶の励行「挨拶は、人に好かれる魔法の言葉」 (イ) 積極的な交通指導と校内巡視 (ウ) 生徒会活動の活性化 (エ) 学校生活のルール・マナーを徹底 (オ) 施設、設備の安全管理の徹底	登下校を含む学校生活における重大事故発生件数0件	・重大事故発生0件 ・交通事故発生0件	A	・交通講話（御殿場警察署）二輪車グッドマナー教室（御殿場自校）を通して、交通安全の意識を高めることができた。 ・年間を通して登校指導を実施し、生徒への啓発に努めた。 ・免許取得者の増加（特に原付）をふまえ、今後も交通法規を遵守させる。
		いじめ、恐喝、窃盗の発生0件	・いじめ、恐喝、窃盗の発生0件（昨年度1件）	A	・多くの生徒が規範意識を持ち、落ち着いた学校生活を送ることができた。 ・小中学校時の不登校等、集団生活の経験が少ない生徒について、コミュニケーションスキルを向上させ、生徒間トラブル・問題行動を未然に防止していく。
		「授業・生活アンケート」の主体的行動、生活態度の項目における肯定的自己評価90%以上	・肯定的な自己評価90.7% 遅刻欠席時の連絡（前年比14%減）、教室ロッカーの整理（6%減）、信頼して相談できる友人がいる（5%減）	A	・基本的な生活習慣の確立については個人差が大きい。特に、課題を有する生徒については情報交換会等で個々の状況を把握し、改善に繋げたい。 ・欠席遅刻の連絡徹底、安易な欠席の防止、授業規律向上・確立はすべての生徒に継続的に指導していく。
イ	基礎基本の定着と自ら学ぶ姿勢の育成 (ア) 生徒一人一人の学力の把握に努め、検定取得を推奨 (イ) 学習支援員等による授業外での学習支援 (ウ) 生涯学習の基礎作り	授業アンケート評価10項目全てで肯定的評価95%以上	・10項目中9項目で肯定的評価95%以上。 ・低評価なもの「授業は生徒が質問や発言をしやすい雰囲気だったか」に92%（前年比3%減）	A	・全体的に落ち着いた雰囲気の中、集中して授業に臨んでいる。基礎基本の定着という観点では、「欠点」を取ってしまう生徒への継続的支援を考えなければいけない。

様式第3号

ウ	勤労観と自ら進路を切り拓く力の育成 (ア) ハローワークや地域の関係機関と連携し、キャリア教育を充実 (イ) 地域の人材等を活用し、地域の産業や課題について学ぶ機会を充実	進路決定率 100%	・卒業予定者8名中、進路決定者は、7名。残る1名も連絡待ち。	B	・進学、就職共に学校の見通すスケジュール通りに指導が行えなかった。 ・昨今の生徒の質を踏まえ、次年度以降どう進路意識を醸成するか、一年かけて見直しを図るなどした。
		進路行事を各学期1回実施	・外部機関と連携し、進路行事を各学期1回実施した。 ・地元企業を講師として招き、「スーツ着こなし講座」を実施した。	A	・進路行事を通して、進路について考える動機付けとなった。 ・進学、就職共に、生徒には早い段階で「私事」として捉えて欲しい。また、学校側は引き続きそのきっかけづくりを行っていく。
エ	家庭・職場・地域からの理解、協力を得られる広報体制の整備 (ア) 教育活動の内容について保護者や地域へホームページ（以降、HP）を活用しての情報発信	HP 毎月の更新1回以上	・ホームページのリニューアルを行った。 ・行事報告が令和6年度は24件（*1月末現在）と、毎月更新の目標を達成している。	A	・今年度ホームページのリニューアルを行った。 ・行事報告記事の更新24件。 ・生徒への緊急時等の連絡手段は39mail、Google クラウドルームなどを場面により使い分けている。 ・今後も小山高校定時制の情報発信手段の一つとして、更新の頻度を保ちたい。
		定時制広報方針を年度内策定	・今年度中に策定の予定	B	・昨今の定時制生徒の状況を鑑み、策定を行っている。
オ	組織力を高め、学校全体として教育に当たる体制の推進 (ア) 組織力を高めるための校内研修の充実 (イ) 分かりやすい授業のためのユニバーサルデザインの考え方やICTの活用方法の共有	研修内容は適切だったか、意思の共有ができたか、について職員アンケートを行い、肯定的な評価90%以上	100%の教員が肯定的評価	A	・今年度研修（一部）：「発達支持的な生徒指導の充実」（総合教育センター訪問時）、「ICT研修（“桃鉄”活用の模索）」、「定時制・通信制高等学校における特別支援教育の現状と課題」（職員研修）などを定期的に行った。

カ	教職員がワーク・ライフ・バランスを意識した業務の推進 (ア) 教材研究や情報交換の時間の確保 (イ) 休暇取得の推奨 (ウ) 自己研鑽や心身のリフレッシュによる教育効果の向上	夏季休業中の休暇取得 5 日以上。年間 10 日以上	教職員 8 名全員が達成。	B	・今年度は夏季休業中の休暇取得促進日（8/13～15）に加え、時差勤務が試行的に実施され、これらを有効に活用し、すべての教職員が休暇取得できた。 ・年間 10 日以上についても、達成できているが、これをいかに教育効果の向上につなげていくかは課題となる。
		「生徒と向き合う時間」、「指導準備時間」が増えていると感じる教員の割合 80% 以上	「非常によく達成されている」「概ね達成されている」が 100%	A	・分掌内での業務分担の見直し等を継続して行う。分掌業務以外にも個々の教員の抱える業務は多岐に渡る。継続して、整理していきたい。 ・《管理職》年間を通じ、積極的な年休取得を呼びかけた。反面「夜間定時制」という特殊な勤務であること、緊急で個別な対応が必要な指導場面等もあり、年休を取りづらい実態がある。 ・今後も継続的な声掛けや、長期休業中の休みの取得などを勧め、職員間の雰囲気涵養に努めたい。